



コロナ感染拡大とのたたかい

山本 眞智子

§ 初めて入居者さんに感染者が出た

わかばでは、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるいはじめた2020年4月以降、2022年8月までに職員4人に陽性者がでましたが、感染ゾーン対策を徹底し他職員や、入居者さまに広げることなく日々を過ごしてきました。しかし、今回は違いました。

8月3日、職員Aさんの鼻閉に気づき抗原検査をしたところ、コロナ陽性を確認。同日Aさんの勤務するユニットの入居者さん1名の感染が判明しました。すぐに感染ゾーン対策を開始しましたが、翌日、Aさんのユニットに応援にはいていた職員Bさん、7日にもう1名の職員の陽性が確認され、その後、Bさんのユニットの入居者さん2名の感染が判明。わかばではじめて、職員と入居者さんへの感染が広がる事態となりました。

§ 「これまでの対応ではだめだ…」

和歌山生協病院の管理部に感染対策への指導協力をお願いし、物資とともにたくさんの意見をもらいました。それは、誰に感染が拡大しているかわからない時には、きちんと入居者さんの「居室管理」を徹底することでした。全員の居室管理は初めてでした。食事も各自部屋でとり、リビングへ出ることは禁止しました。

感染者の部屋に入室するときは、袖付きガウン、キャップ、N95マスク、フェイスシールド、手袋と「完全武装」で介助にあたりました。排泄物は他と区別して、感染性廃棄物として処理しました。食器は使い捨て食器を使用し、入浴は中止、清拭（体を拭く）、陰洗、更衣を行いました。衣服はウィルスが死滅する期間（3日）を置いてから洗濯しました。マニュアルで大筋はきめていても「こういう場合どうしたらいいのか？」という疑問は日常業務の中で次々出てきて、その都度話し合いました。情報が徹底せず、職員が困惑した場面もありました。8日以降感染者は出さず、8月19日で感染対策を解除し、通常の業務に戻ることができました。

完全武装



§ 今回の経験で感じたことは…

- ① すぐに相談できる和歌山民医連の事業所が存在することに力強さを感じました。また、老健施設「松寿苑」からの励ましの寄せ書きと、飲料水の差し入れは、こころと身体に染みわたりました。
- ② リビングで過ごした時期が最初の期間ありましたが、入居者さん同士の感染拡大はありませんでした。2020年4月、リビングでの座席配置を感染防止の視点で検討したことが良かったと考えています。（→裏面へ続く）



寄せ書きと飲料水

特別養護老人ホーム

わかば

〒640-8390 和歌山市有本 140

TEL (073) 475-0015 FAX (073) 475-0016

HPアドレス <http://www.nijiwakaba.com/> ※「にじわかば」で検索